



認定NPO法人

多文化共生センター東京 ニュースレター

Multicultural Center TOKYO News Letter

学びあい、わかりあう **みんぐる**

# mingle

# 2024.3

# Vol.77



Top News …1

わたしのくに紹介 …1

特集：… 2・3

たぶんかフリースクールの毎日… 4・5

活動報告（フリースクール）…6

活動報告（ボランティア教室：特別編）…7・8

活動報告（行政との協働事業）…9

活動報告（放課後教室）… 10

イチオシ … 10

たぶんかギャラリー

〈ミャンマー〉バガン

たぶんかフリースクール荒川校

アウンさん



## ほんとうにまなびたいことを学べるように

代表 栢木 典子

3月16日、たぶんかフリースクールの卒業を祝う会が行われ、明るい笑顔で45名の生徒が卒業していきました。2023年度も多文化共生センター東京に温かいご支援をいただきまして、ありがとうございました。

4月からは、高校生活がスタートします。そして、その先は大学や専門学校へいきたい、社会人として働きたいなど、子どもたちは、さまざまな夢を持っています。たぶんかフリースクールでは、「まず、日本語力をつけよう……」「日本語を学ぶことは大事!」と日本語学習の日々が続きます。子どもたちの学びの大きな柱は、日本語学習ですが、一方でアルバイトをしながら、学費を作り、家族を支えているアフガニスタンから来た生徒が書いてくれた作文から、私たちは生徒の学びへの多様な思いを教えられています。

……今、教育のシステムで生活の勉強は少ないです。日本の学校へまだ入ったことがありませんが、アフガニスタンの学校は、そうと思います。学校でみんなは、数学と英語と他の教科を一番大切と思います。でも、私は生活の勉強がいちばんたいせつだと思います。例えば、どうやってお金をつくって、どうやってそのお金をマネジメントするか、どうやって、自分の怒りをコントロールするかなどです。……

私たちは、学習支援の活動をしています。それは、最終のゴールでは、ありません。私たちに求められていることは、子どもたち自身が本当にやりたいことを見つけ、自分らしく進んでいけるように共に歩むことだと考えます。

## わたしのくに紹介～ミャンマー連邦共和国～



မင်္ဂလာပါ (ミンガラパー：こんにちは) 今号は、3月にたぶんかフリースクール荒川校を卒業したアウンさんに絵を、タンシンさんに国の紹介をしてもらいました。

かつてビルマと呼ばれていたミャンマー連邦共和国は日本の約1.8倍の広さで、国民の90%が仏教徒です。2006年に沿岸部のヤンゴンから約300km離れたネーピードーに首都が変わりました。一般的にミャンマーではファミリーネームがありません。相手をお呼びするときは、3つから6つのほどの語から成る名前の全部をお呼びします。

バガンは11世紀から13世紀頃にバガン王朝が栄えたまちで、世界三大仏教遺跡の一つです。2019年にはユネスコの世界文化遺産に登録されました。



ミャンマーは世界でも長い歴史がある国の一つです。長い歴史の中で、いろいろ複雑な政治があり、国はまだ平和ではありません。でも、どんなに平和でなくても、みんなはあきらめずに生き続けています。そして、仏様をどれだけ大切に思っているかが、あちこちにある金色のパゴダー（仏塔）を見れば、分かります。

ミャンマーはまだ平和ではないですが、やさしい心をもっている人が住んでいる国です。

(タンシンさん)

2021年2月の国軍によるクーデター発生後は、緊急避難措置として日本での在留や就労が認められるようになりました。現在日本には10年前の8倍以上、7万人近いミャンマー人が暮らしています。

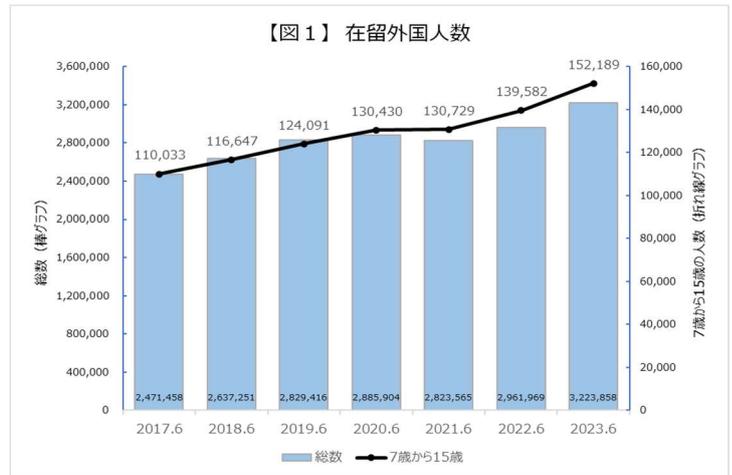
※参考サイト：外務省、ユネスコ、法務省ほか

# 特集

## 数字から見る外国ルーツの子どもたち ～コロナ禍を越えて～

文部科学省が実施する「学校基本調査」（毎年）、「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」（隔年）、法務省の「在留外国人統計」や高校入試の状況など、いくつかの統計結果を基に、コロナ禍以降の外国ルーツの児童生徒の状況について報告します。

○7歳から15歳の外国籍住民は、コロナ禍でも増加  
法務省が公表した2023年6月末在留外国人数は322万人を超え、過去最高になりました。コロナ禍では入国の制限が設けられたため、2020年末と2021年末時点では一時減少しましたが、7歳から15歳の子どもたちについては、入国制限の期間においても、伸び率は小さくなったものの一貫して増加しています（図1）。入国制限の影響が全体と比較して小さいことから、外国籍住民の定住化が進んでいることが見て取れます。



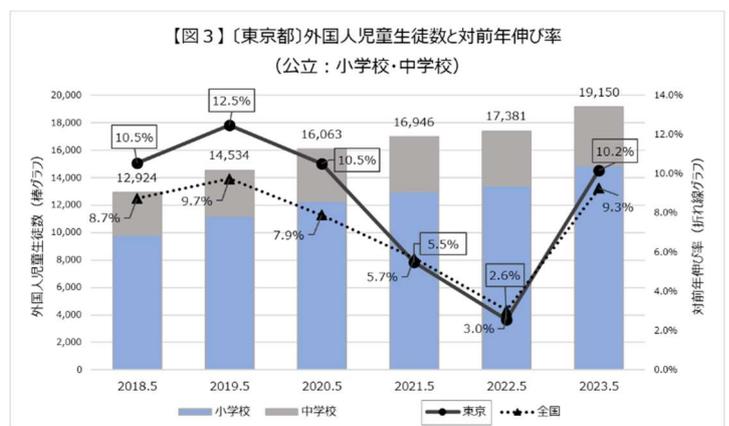
### ○外国籍の子どもたちの就学

公立の小中学校に通う外国籍の児童生徒も増加傾向が続いています。2023年5月時点で全国の公立の小中学校に在籍する児童生徒（図2）は115,722人で、前年よりも9,807人（9.3%）増加しました。都道府県別では東京都の人数が全体で一番多く19,150人で、前年よりも1,769人（10.2%）増加しています。中学校については愛知県の生徒数が一番多いですが、小学校の児童数の差を鑑みると、中学校の外国人生徒数も、近い将来東京都が最大となることが予測されます。

【図2】外国人児童生徒数（公立小中学校）2023年

	小学校	中学校	合計
全都道府県	84,930	30,792	115,722
(内数) 在留外国人の 多い自治体	1.東京都	4,310	19,150
	2.愛知県	4,969	16,764
	3.埼玉県	2,758	11,273
	4.神奈川県	2,685	10,868
	5.大阪府	2,093	8,168

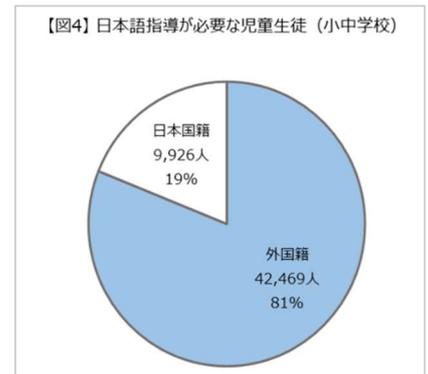
対前年の伸び率（図2折れ線グラフ）をみると、東京都は変動幅が大きく表れています。この数字だけでは判断できませんが、東京は新規に来日して小中学校に編入する子どもたちの割合が多く、入国制限の影響を大きく受けたと考えられます。



### ○日本語指導が必要な日本国籍の子どもたちの増加

「学校基本調査」は外国人児童生徒の調査をしていますが、外国にルーツを持つ日本国籍の児童生徒についての調査はありません。しかし、同じく文部科学省が行う「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」の直近の2021年の結果では、日本語指導が必要な児童生徒（小中学生）のうち、約20%を占める9,926人が日本国籍です。そして、この調査結果に表れる人数は、回を重ねるごとに増加しています。帰国児童生徒（1年を超える期間海外に在留し、前年4月1日から翌年3月31日までの間に帰国した日本国籍の児童生徒）の人数も増加傾向にある中で、日本語力の差によって学びが滞らないように、国籍にかかわらず、日本語を学ぶ環境を強化し、子どもたちの学ぶ力を伸ばす取り組みが求められます。

【図4】日本語指導が必要な児童生徒（小中学校）



## ○都立高校 在京外国人生徒対象特別入試

都立高校では、5教科の試験を行う一般入試とは別に、外国籍生徒を対象とした特別入試（在京枠入試）が8校で行われています。試験は日本語または英語による面接と作文により行われ、日本の中学校に在籍する生徒については来日3年以内などの資格要件があります。

2024年4月入学のための入試では、外国籍の中学生数の増加の影響を受け、全体で160名の

定員に対して309名が応募しました（図5）。在京枠の倍率は、一般入試の全日制1.39に対して0.54ポイント高い1.93という厳しい競争でした。直近8年間の応募倍率の平均も、全日制1.40に対して在京枠は1.63と0.23ポイント上回っています。加えて、概ね横ばいの全日制的倍率と比較して高低の幅がとても大きく、年による差が大きいことがわかります。

在京枠入試が始まって35年以上経過し、20年近く1校しかなかった在京枠入試実施校は8校にまで増えましたが、今年は150名近い生徒が不合格となりました。来日して年数が浅く、日本語力がまだ十分ではない生徒達のために、高校進学を機会を広げるように在京枠校をさらに増やすことが求められています。



## ○外国ルーツの子ども達の高校入試

在京枠入試は、子どもたちの可能性を広げるチャンスの一つです。しかし、このような外国人生徒対象の入試制度があるのは22の都府県に留まり、その全てで定員数の合格が約束されているわけではありません。東京には特別枠の制度がありますが、それでもこの試験を受けることができるのは外国籍の生徒だけです。外国ルーツの日本国籍の生徒は、5教科の試験に臨む他はありません。

下の表は、神奈川県と大阪府の制度と比較したものです。神奈川県と大阪府の特別入試では日本国籍の生徒も対象となっており、外国籍の生徒についても来日してからの年数の要件が東京よりも長く設定されています。学習言語の習得に5から7年必要とされていることを考慮すると、東京の入試制度はより厳しいものです。また、大阪では作文試験の言語の指定がないなど、独自の取り組みもあります。

日本語指導が必要な生徒は、高校の中退率が全体よりも高いことも指摘されています。そして、外国にルーツを持つ子どもたちは今後も増えていきます。東京都の東京都立高等学校入学者選抜検討委員会では、日本語指導が必要な生徒への入試の有り方の検討を進めていくことが報告されました。国籍にかかわらず、子どもたちがよりよい学びの環境につながることをできるように、入試制度の改善は喫緊の課題です。

【表】「外国ルーツの生徒対象の特別入試」

	東京都	神奈川県	大阪府
来日時期の要件	【外国籍】来日3年以内の生徒 ※中学校在籍の場合	【外国籍】来日通算6年以内の生徒 (小学校入学前を除く) 【日本国籍】国籍取得後6年以内の生徒	【外国籍・日本国籍】小学校4年以上に編入した日本語指導が必要な生徒
試験の内容	面接・作文 (いずれも日本語または英語)	英語・国語・数学・面接	作文・数学・英語 (作文は日本語以外でも可)
実施校 (4月募集人数合計)	8校 (160人)	全日制 16校 (153人) 定時制 4校 (52人)	8校 (126人以内)

※参考：文部科学省「学校基本調査」及び「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査」、法務省「在留外国人統計」、東京都「令和6年度東京都立高等学校入学者選抜検討委員会報告書」、教育委員会ウェブサイト(東京都、神奈川県、大阪府)、外国人生徒・中国帰国政党の高校入試を応援する有志の会「都道府県立高校における外国人生徒・中国帰国生徒等に対する2023年度高校入試の概要」 ※本文中の図表は上記資料を基に作成しました。

# 卒業おめでとう！

2023年度は、前年度以上に開講当初からフリースクールへの入室相談が絶えない状態が続き、荒川・杉並両校で、9月までに3クラスを開室しました。遅く始まったクラスの生徒ほど学習時間が短くなるため、入試を迎えるには厳しい状況でしたが、生徒たちはできる限りの努力をして、希望する進学先へ歩みを進めました。

3月16日に荒川区のムーブ町屋で、たぶんかフリースクールの卒業を祝う会を行いました。荒川と杉並の両校の生徒達、先生、家族、生徒達を応援してくれている会員やボランティアさんにも来ていただきました。生徒達はクラスごとにステージに上がり、ひとりずつフリースクールでの思い出や今後の抱負を発表しました。歌やダンスを披露してくれた生徒もあり、皆で新しいスタートに向けてお祝いをしました。



↑ステージで発表



↑クラスみんなで歌を歌いました

ネパールのダンス→



## 進学おめでとう！

2023年度卒業生の進学先

東京都立高校（全日制）	23名
東京都立高校（定時制）	14名
埼玉県立高校（全日制）	4名
埼玉県立高校（定時制）	1名
千葉県立高校（全日制）	1名
私立高校（通信制）	1名



# 卒業生のメッセージ

毎日勉強してどんどんなりました。  
先生たちはとても優しくでした。  
勉強がつかない時何回も言いました。  
日本に初めて来た時日本語が話せないと  
こまりました。でも 今がたいい話せるとこまりました。



【荒川校 ASさん】

そこで過ごした時間と思い出  
に感謝しています。

たぶんかファミリースクールはいつも私の  
心の中で特別な場所です。



【杉並校 Kさん】

初めての時ははらがな、カタカナもおすかしはたて

先生からたずねてもらって けいこたになりました。



先生たちの おかげで がんばりました。この後 高木先生の勉強をがんばります。

【杉並校 Aさん】

2020年から 2023年まで 3年間の間で

いそいそと勉強できました。

いそいそ 喜んでくれて ありがとうございました。

ボランティアの先生たちの おかげで 入試で

面接は とても 簡単でした。練習の時

とても ぎびしいかも 思うのですが、

ほんとのために 練習してくれました。入試の

面接 終わった 時に 知りませんでした。ボランティアの先生

ありがとうございました。とても がんばりました。 【荒川校 Tさん】

私はたぶんファミリースクールで 自分

のくいとほまのくいとちたちを

つくりました。そのときとてもうれしかったです。

です。はじめて 外国のちたちをつた

ときじょうかいしました。

たぶんファミリースクールの先生は日本語を

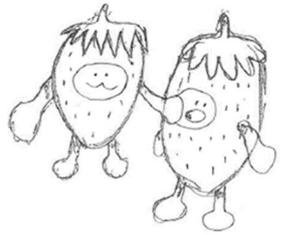
とても やさしくおしえました。

【杉並校 Sさん】

面接の練習はとても役に立ちました。おかげで私は志望校に合格することができました。

本当にありがとうございました。私が自信がないうち、励ましてくれてありがとうございました。

高校でもたくさん友達を作って、楽しい生活を送りたいと思います。



【荒川校 TTさん】



ちやうちん を つくる の か おもしろくて たのし

かったです。さまざまな かつどう は しるに

かんがえます。ほんとう に ありがとう ございました。

【荒川校 SLさん】

## たぶんかフリースクール荒川校

荒川校で数学を教え始めて9か月が経ちました。最初は手探り状態でしたが今は慣れ、個々の生徒の性格、個性といった点も把握しながら授業ができるようになりました。

9か月の生徒との触れ合いの中では、生徒の成長を実感できる場面が多々ありました。いままでわからなかった解法を理解した生徒の顔がパッと明るくなる、そのような瞬間に立ち会えたことは講師としてこの上なく嬉しいことでした。一方で、授業によってこない生徒がいたことも事実で、知的好奇心に刺激を与えられていないのではないか、学ぶ楽しさを伝えられていないのではないかと自問自答を繰り返す日々でもありました。

直近の面接練習では、生徒達の将来の夢を聞く機会に恵まれました。「日本語をもっと勉強して、母国と日本の懸け橋になりたい」「料理が好きなので、両親と一緒に飲食店を開きたい」「動物が好きで獣医師になりたい」など、他にもいっぱいありました。

図らずも親の都合で母国を離れ日本に来た生徒達は、それでも皆それぞれに素晴らしい夢を語ってくれました。生徒ひとりひとりに目標があり、かけがえのない夢がある。このことを肝に銘じて、夢が実現できるよう生徒達を支えていきたいです。

【講師 筏井秀憲】



## たぶんかフリースクール杉並校

今年度の杉並校の日本語3クラスは、9月半ばに8名でスタートしました。中国、フィリピン、ネパールの混成クラスです。皆ゆっくりペースで、4か月後の受験までに日本語がどこまで入るか心配しながら授業をしていたのですが、日本の生活に慣れるとともに勉強のペースも少しずつ上がってきました。

さて、日本語の読解の学習の中で作文を書く課題が幾つかあります。皆さんよくご存じの「白雪姫」ですが、白雪姫がりんご売りのおばあさん（実はお妃）にりんごを貰い、一口齧るところで終わっています。そして、その後のストーリーを書くという作文活動を2月に行いました。生徒たちは原作に似たストーリーを書いたり、全くオリジナル作品を書いたりいろいろですが、本人（ASさん）の了解のもとここで一つ作品を紹介したいと思います。



白雪姫は気分が悪くなりました。その時王子がここに来て(中略)怒りましたからけんでおきさきを殺しました。「美しい姫、私の妻になってくれませんか」白雪姫はどういしました。二人は城に帰りました。数年後、王子は王様になりました。白雪姫は白雪さきになりました。彼らは幸せに暮らしました。白雪はますますきれいになりました。ある日、王様はおきさきの部屋から白雪の声が聞こえました。

「鏡よ鏡、この世の中で一番美しいのはだれ？」

【抜粋】 原文まま

これを読んだ後、私の中の清純な白雪姫のイメージがガラガラと崩れ落ちました。【講師 杉浦道子】

# ボランティアの 活動報告

特別編

## 子どもたちとボランティアが和気あいあい

### 土曜日ボランティア教室

海外出身の子どもたちにとっては、学びの場であると同時に、友達を作ってワイワイ遊ぶスペースにもなる。ボランティアにとっては、子どもに楽しく教えながら、世代や立場を越えて交流するコミュニティにも、家や職場に続く“サードプレイス”にもなりうる——。多文化共生センター東京の土曜の午後は、そんな多面的な魅力が溢れる温かい空間です。

高校生以上で、子どもを思いやれる方であれば、学習支援ボランティアをするのに特別な参加資格はありません。10代から70代まで、老若男女さまざまなメンバーが、毎週子どもたちと賑やかに勉強し、ゲームに興じています。外国語ができなくても、算数や数学が苦手でも大丈夫。他のメンバーが助けてくれて、良き時間を過ごすことができます。

誰もが自分のペースで参加できる“ゆるさ”が多文化のボランティアの良いところ。毎週参加する人もいれば、数週間に1回、数ヶ月に1回、あるいは数年ぶりに参加する人もいますが、皆、多文化のドアを開けたとたん、同じ仲間として気さくに受け入れられます。可愛い子どもたちの役に立てるのが嬉しい、学習支援活動から貴重な学びを得た、ボランティア仲間との交流が楽しい、レポートを書く上で参考にしたい…など、続ける理由も人それぞれ。どうぞお気軽にご参加ください。【ボランティアリーダー 広部潤】



#### 学習者が語る「だから多文化が大好き！」

土曜に来るのは、日本語を勉強したいからですが、午後に寝ないようにという理由もあります。

(1時からの)クラスに行かないと、眠くて昼寝をしてしまうんです。多文化の先生たちは優しいです。将来は日本の大学で医学を学んで医師を目指します。医師になるとおじいさんと約束しました。だからその目標に向けて中学校でもたくさん勉強し、日本語も上手に話せるようになります。

(シャフィさん：小学生、バングラデシュ出身)

日本語を勉強したいのと、友達を作るため、人と会うために多文化に来ました。ここは第二の学校だと思っています。いろいろな人と話せるのがうれしいです。

(ハヤトさん：中学生、中国出身)

「みんなでべんきょう」の時間に他の子たちと一緒にいろんなゲームや遊びができるのが楽しいです。紙で鬼のお面やカブトを作ったのが一番の思い出。大人になったら看護師さんになってケガしている人を助けるか、小学校の先生になって勉強がわからない子どもを助けたい。

(アナビアさん：小学生、パキスタン出身)

多文化では先生や友達とたくさん話せるのが楽しいです。これからは日本語能力試験と高校に合格できるように勉強したい。将来は日本でタイ料理のお店を何軒も開いて社長になりたいです。

(アミーさん：中学生、タイ出身)



2023年度2月までの学習者は111人。ルーツは全部で10か国！



## ボランティアが語る 「こんなに楽しい子どものサポート」



アメリカに住んでいたとき、現地の方々や学校の先生方大変お世話になったので、受けた温かい心をお返ししたいと思っています。これまで、ペアになった子どもたちから喜びを頂いて、続けてきました。ふだんは口の重い児童が、来日したばかりの同じ出身国の児童を助けて発話を促している様子を見たときのことは忘れられません。子どもたちともボランティア仲間とも、共に同じ時を生きる人間として支え合いたいですね。（山田幸枝さん）

日本にいる海外ルーツの子どもたちが、楽しく安心して暮らしていけるように少しでも手伝えたらと思って、その中で、「居場所」があることがとても大切なことだと感じるようになりました。

多文化は私にとって、多様な子どもたちに出会い、共に学ぶ「場」です。生徒たちが入試に向けて繰り返し面接練習をしていたことが印象に残っています。みんな、自分の出身に誇りを持って多様性を尊重し、柔軟に生きる人に成長してほしいと思います。

（鈴木るりさん）

## 保護者が語る 「多文化は我が子にとって最高の場」

3人の子どもを多文化の土曜日教室に通わせています。日本の人々と文化になるべく多く接してもらうためです。子どもたちは学校にも通っていますが、学校だけ

では彼らが知る「日本社会」は限られたものに留まってしまう。多文化ではその点大人のボランティアや年齢の違う子どもたちと交流できて、成長にすごく役立っています。世界各国の子どもたちと友だちになれるというのも重要なことで、子どもたちはいつも、他の子どもたちがどこの国から来てどんな文化で育ったのか興味津々のようです。多文化から帰ってくると、その日学んだこと、見たこと、経験したこと、どんな人に会ったのかを本当に楽しそうにたくさん話してくれます。

ボランティアの先生たちが一対一で、優しくフレンドリーに教えてくれることも気に入っているようです。子どもたちにとって素晴らしい場所に出会ったと思います。（ウスマンさんご夫妻、パキスタン出身）

※インタビューは英語で行いました。

## 輪投げが大好評！ 地域イベント参加レポート

2023年11月25日に荒川区の東日暮里一丁目公園で開催された「ひと・もの・くらし荒川再発見」という地域のイベントに団体として参加しました。土曜日ボランティア教室に参加している子どもたちが友達やボランティアと一緒に、毎週の教室の時間、一生懸命かつワイワイ楽しみながら、それぞれのルーツの国や地域を含む世界各地の名物の絵を描き、世界で唯一の個性溢れる「世界地図輪投げ」を作成して出展しました。イベント当日は親子を中心にひっきりなしに来場があり、何度も輪投げに挑戦する子どもも沢山いて世界地図輪投げは大好評！



来場者には、輪投げと同様に土曜日ボランティア教室に参加する子どもたちが作成した、それぞれのルーツの国の言葉で「ありがとう」と書いたスペシャルカードをプレゼント。活動に興味を持ってくださった方々に団体の活動を詳しく説明することもでき、地域の方々に多文化共生について関心を持ってもらうよいきっかけになったと思います。

【ボランティア・コアメンバー 白井宏樹】

## 【協働事業 ①】 荒川区立小中学校：ハートフル日本語適応指導事業

春は別れと出会いの季節ですが、ハートフルは開始も終了もバラバラです。来日間もない生徒は、まず3か月の通室クラス（午前）でひらがなから、その後3か月の補充クラス（放課後）も合わせて文字や文法など基本的な日本語を学んでいきます。

新入生が入る度に繰り返すため、自己紹介はすぐに上手になります。レベルによってグループに分けますが、時々皆で一緒に活動をしたり、ディクテーションで答えを教え合ったりもします。国も学年も様々ですが、3学期の中3は受験もあって大変。ハートフルで受験準備は対応しきれないので、金曜の放課後教室や土曜の学習支援につなぎ、みんな無事に合格しました。

休み時間には、中国やネパールなど母語が同じ生徒同士は途端におしゃべりでにぎやかになります。一方、国や言葉がちがうと共通語は日本語しかありません。最初は様子をうかがいながら、徐々にうちとけていきます。あまり話していないようでも他の生徒の様子をよく見ている子や、「今日学校を休んでいたから、ハートフルも休みだと思う」と教えてくれる生徒もいて、子ども同士のつながりを感じます。こんな風に、日本の学校や社会の中でも友人や相談相手を見つけてほしいと思います。

終了時に「ハートフルで勉強して」という作文を書いて、みんなの前で発表します。楽しかったのは友だちと話したこと、漢字が大変だったという声が多いです。将来についてのコメントは実に様々。サッカー選手になって外国に行く！という生徒もいました。すべての生徒の将来に幸あれ。 【講師 野原直子】



ディクテーションの答えを板書

## 【協働事業 ②】 都立高校：多文化共生スクールサポートセンター事業

現在、多文化共生センター東京が支援する8校の都立高校では、約50名の方が日本語指導や通訳などの「多文化共生スクールサポーター」として活躍しています。その方々を対象に12月と2月にオンラインで研修がありました。

12月に当センター主催で行った研修では、高校の教員も含め22名の参加がありました。今年度から高校支援を始めたサポーターもいるため、まずはコーディネーターから都立高校の概況を説明。日本語・教科・生活・進路など、各校で実際に行われている支援を図や写真を交えて紹介しました。その後、ブレイクアウトルームに分かれ3、4名で情報を共有しました。「断片的にしか知らなかった制度についてまとまった話が聞けて、ためになった」「他校の様子を知り、共感することが多く安心した」という感想がある一方で、「日本語指導が細切れになりやすい」「学校とどう連携すべきか」といった悩みや課題も多くあげられました。いただいたご意見については、引き続き各学校と共有し、改善できるよう働きかけていきます。

3月になり、コーディネーター業務も講師の紹介や新入生説明会の運営補助、日本語プレイスメントテストの作成など、新年度に向けた内容が増えてきました。課題は多いですが、外国人生徒への支援の必要性が学校に少しずつ浸透している実感があります。引き続き必要とする全ての高校生が支援を受けられるようコーディネーターとして努力を続けていきます。

【多文化共生スクールサポートコーディネーター 坂本昌代】



オンラインでの研修

# たぶんか 放課後教室



たぶんか放課後教室のボランティアをするようになって2年が経ちます。参加する以前と比べると、外国にルーツを持つ子どもたちの存在が自分にとってすごく馴染みのあるものになっているとつくづく感じます。私は、大学で国際社会学を学んでいます。そのため、講義やゼミのなかで外国にルーツを持つ人たちのことが取り上げられることがしばしばあります。ボランティアに参加するようになって、そうしたときに自然と放課後教室の生徒のことを思い浮かべるようになりました。活動を通じて、自分にとって外国にルーツを持つ人たちが「どこかの誰か」という曖昧な存在から、「放課後教室の生徒」という明瞭な存在になりました。この2年間、貴重な経験と素敵な思い出をありがとうございました。

【4年 藤田明弘】



ゼミ合宿の記念写真

子どもたちの支援を一緒に行っている東洋大学の学生さんからの活動報告です。

大学の授業では、外国にルーツを持つ子どもたちについて勉強しています。たぶんか放課後教室で生徒と接することで、母語ではない日本語で学校の勉強をする難しさを深く理解できました。

放課後教室ではただ学習するのではなく、生徒自身が何を学習すべきなのかを考えてもらうようにしています。例えば、高校受験を控えた中学3年生は、他の生徒とは別の部屋で勉強したり、在京試験の対策に面接の練習を行ったり、自己PRカード作成をしたりしました。

【4年 橘良直】

# イチオシ



ひがしとうきょうまちなち  
『東 東 京 区 区』(2023/7) かつしかけいた 作

今回ご紹介する一冊には、三人の主人公がいます。大学生のサラ、小学生のセラム、中学生の春太です。サラはインドネシア人の父と日本人の母を持つイスラーム教徒、セラムはエチオピアから来日してエチオピア料理の店を営む母と下町の工場で働く父と暮らす葛飾生まれの元気な子、春太は馴染めない学校に行くよりも図書館で調べものや散策をして地図や歴史の探求を深めることが好きです。一見、なんの接点もないような三人が偶然出会い、葛飾区や江戸川区、そして多文化共生センター東京の事務所がある荒川区（第6話には、たぶんかフリースクールの生徒達がイベントで行った「ゆいの森あらかわ」や三河島の商店街も出てきます!）といった東京の東側のまちを歩き、歴史の足跡を見つけ、そして多文化に変化していく様にあれこれ思いを馳せます。

最初はちょっと特別なバックグラウンドの三人のようにも感じますが、一緒に街歩きをしている気分でページをめくり、耳慣れた場所にこんな発見があるのかとわくわくするうちに、よく知っている友達のように感じてきます。『東 東 京 区 区』のコミックレーベルの名前は、「路草/みちくさ」です。これからの季節は散歩にぴったり。このコミックを読んだ後は、みなさんもきっとまち歩きに出かけたくくなりますよ。



(C)かつしかけいた  
トゥーヴァージンズ

最新話をウェブサイトで見ることができます。『路草』 → → <https://michikusacomics.jp/product/machimachi>



# (認定) 特定非営利活動法人 多文化共生センター東京

## ビジョン

私たちは、国籍、言語、文化の違いをお互いに尊重する多文化共生社会を目指しています。外国にルーツを持つ子どもたちの教育、とくに高校進学に力を注いでいます。

### 基本的人権の尊重

「ことば」「制度」「こころ」の壁に起因する社会的不公平によって、誰もが等しく持つ権利が損なわれる不公平を是正する

### 少数者へのカづけ (エンパワメント)

自分の文化や言語を享受できる環境づくりや安心して自分を出せる居場所づくりにより、少数者自らが自分自身を支えていく

### 社会へのアプローチ

「日本人」・日本社会が少数者の置かれている状況を理解するとともに、多文化共生社会の意味や大切さ(大変さ・楽しさ)を理解し、多数者である「日本人も」変わり、少数者とともに生きていく

## ミッション

- ・外国にルーツを持つ子どもたちの教育機会の拡大に努めます。
- ・外国にルーツを持つ子どもたちが個性や能力を発揮し、日本で活躍できるような教育の実現に取り組みます。
- ・国籍、言語、文化の違いを認めてお互いを尊重する教育の実現に取り組みます。

## ご支援のお願い

○当センターの活動や当センターで学ぶ子どもたちをサポートするため、ご寄付をお願いいたします。

### 一般寄付

多文化共生センター東京の活動全体へのご支援

- ▷ 都度寄付：1回限りの寄付をして活動を支援
- ▷ マンスリーサポーター：毎月定額を寄付して活動を支援(カード決済)

### たぶんか子ども基金

経済的な理由から「たぶんかフリースクール」の授業料を負担することが難しい家庭等、子どもたちの学びを継続するための支援

次のいずれかの口座へのお振込み、または、クレジットカードからお手続きをお願いいたします。

- ・郵便局から：00110-8-407588/多文化共生センター東京
  - ・銀行から：ゆうちょ銀行/019店/当座0407588/トクヒ) タブンカキョウセイセンタートウキョウ
- ※クレジットカードでのご寄付は、ウェブサイトからお申込みください。

○当センターの趣旨に賛同し、団体運営にかかわってくださる会員を募集しております。

- ・正会員 年会費 5,000 円 (正会員には総会での議決権があります)
- ・賛助会員(個人) 年会費 1口 1,000 円、3口以上
- ・賛助会員(団体) 年会費 1口 30,000 円

## みんぐる Vol.77 2024年3月発行

編集：多文化共生センター東京事務局 発行：特定非営利活動法人多文化共生センター東京

※「みんぐる」は、英語“mingle”＝「(2つ以上のものが各要素で区別できる程度に)混ざる・一緒にする・交流する」から名づけました。



### 【事務局・たぶんかフリースクール荒川校】

住所：〒116-0002 東京都荒川区荒川3-74-6  
(メゾン荒川II201)

TEL/FAX：03-6807-7837

e-mail：info@tabunka.or.jp

Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時  
土曜日…午前10時から午後7時

ウェブサイト <https://tabunka.or.jp>



### 【たぶんかフリースクール杉並校】

住所：〒067-0021 東京都杉並区井草2-35-5  
(杉並育英SITEC内)

TEL：03-6915-0200

Open：火曜日～金曜日…午前9時から午後6時

リニューアル  
しました！

フェイスブック、Xでも活動の様子を発信しています。  
ぜひご覧ください！